

令和6年度学校経営の重点等

スクール・ミッション

「自律 創造 友愛」の理念のもと、自らを律する力、課題を発見し創造的に解決する力、広い視野と柔軟な発想力、思いやりや寛容の心を備えた、地域共生社会を実現できる人材を育成する。

スクール・ポリシー（三つの方針）

I 育成をめざす資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）

- ① 地域共生社会を実現する生徒を育成する。
- ② 主体的に、多様な価値観を持つ人々と、協力して目標を実現する力をつける。
- ③ 課題解決や新しい価値の創造ができる生徒を育成する。

II 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

- ① 海外語学研修、交流及び共同学習、ボランティア活動などを通して多様な人々と交流する。
- ② 総合的な探究の時間を中心に3年生で調査結果を分析してまとめ、発表する。
- ③ 総合的な探究の時間を中心に2年生で地域や大学等と連携した現地調査を実施する。
- ④ 総合的な探究の時間を中心に1年生で調査研究の基礎を学ぶ。

III 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

- ① 根気よく学ぶ姿勢と、真摯な向上心を持つ生徒を募集する。
- ② 自分のことだけでなく、社会全体のことを考えられる広い視野と寛容な心を持つ生徒を募集する。
- ③ 将来、社会の中で何ができ、どんな人になりたいかを探究する生徒を募集する。

1 学校経営の重点

校訓である「自律・創造・友愛」の実践をとおして、「生徒の主体性を育てる」ことに力を入れ、学力（認知能力）・人格形成（非認知能力）の両方を伸ばすことで、市民としての社会的責任を果たし、地域に貢献する自立した人材を育てる。

(1) 教育目標

- ① 自律：自分の力を信じ、目標に向けてやり抜く力の育成
- ② 創造：自らを律し、主体的に学びに向かう力の育成
- ③ 友愛：地域で学びを深め、地域に貢献できる力の育成

(2) 具体的な方策

- ① 自分の力を信じ、目標に向けてやり抜く力の育成
 - ア 困難を乗り越える力と物事をやり抜く力を育てる。
 - イ 自らを大切にするとともに他者を理解し大切にすることで、互いに高め合う関係を構築する。
- ② 自らを律し、主体的に学びに向かう力の育成
 - ア 探究を軸とし、自ら学ぶ姿勢を確立する。
 - イ キャリアプランニング能力を身につけさせるキャリア教育を実施する。
- ③ 地域で学びを深め、地域に貢献できる力の育成
 - ア 生徒全員が探究活動やボランティア活動を行い、主体性・協働性を育てる。
 - イ 地域デザイン類型の充実を図り、特色ある学校づくりを進めていく。

2 教科指導及び生徒指導（特別教育活動を含む。）の重点

(1) 教科指導の重点

① 教育課程

新学習指導要領の内容を踏まえ、基礎的・基本的な知識や技能を習得するとともに、自ら学び自ら考える意欲や態度を涵養することで、思考力・判断力・表現力等の育成を図る教育課程の充実を目指す。また生徒一人ひとりの能力や適性に応じた授業改善を図るとともに、多様な進路に対応した教育課程の編成に努める。特別に支援を要する生徒に対して、個々の状態に応じ、自律的な活動を含めた特別の教育課程を編成する。

② 特色ある類型

特色ある類型として、令和4年度に地域デザイン類型を設置した。播磨町・大学等と連携した探究活動を通して地域の課題解決に取り組み、地域の発展に寄与することで主体性・多様性・協働性を育成する。多くの学校設定科目を自ら選択履修することで様々な入試に対応し、進路実現を可能にする。

③ 学習活動

互いの多様性を認め、互いが支えあうクラスを基盤として、主体的に学習に取り組む態度を育成する。生徒の実態を十分に把握したうえで基礎・基本を確立し、知識・技能の定着を図る。社会の多様性や変化に柔軟に対応する力を培い、個性を生かし、創造性とチャレンジ精神、ボランティア精神を備えた豊かな人間性を育成する。

- ア 基礎・基本の定着を徹底して行う。
- イ 習熟度別授業や少人数指導を実施し、生徒の能力・適性・進路に応じた学習指導を行う。
- ウ「総合的な探究の時間」を軸として、生徒の興味・関心を引き起こし、主体的意欲的に学ぶ姿勢を確立する。
- エ 各教科において自分の考えを言語化する力を育むとともに、プレゼンテーション能力を育成し、感じたり考えたりしたことを他者にわかりやすく伝える力を養成する。
- オ 各教科において ICT 機器の活用に努めるとともに、正解がひとつとは限らない問いに対して協働して解決するなど生徒の課題解決能力を育成する。
- カ 英会話を中心とした授業を少人数編成で行い、実践的な英会話力を身につけさせる。
- キ 体験研究活動、ボランティア活動や各種検定に積極的に参加させ、それらをポートフォリオに記録させ、就職試験や総合型推薦入試に活用させる。
- ク 基礎学力の定着を目的とした毎日の朝学習や確認テスト等に主体的積極的に取り組む姿勢を身につけさせる。

(2) 生徒指導の重点

生徒一人ひとりの内面的理解に基づく指導を行い、人間的なふれあいを通して心のきずなを深める。また、体験研究活動やボランティア活動を通じて、社会規範意識を身につけさせ、社会の一員としての自律心を育む。いじめや暴力行為、不登校、児童虐待等については、学校・家庭・地域・カウンセラーとの連携を密にし、その未然防止や早期発見・早期対応に努める。

- ① 基本的な生活習慣の確立を図る。(挨拶、清掃、身だしなみ、マナー等)
- ② 生徒一人ひとりの内面的理解に努め、人間的なふれあいを基盤にした指導体制を充実させるとともに、生徒の自己肯定感の高揚を図る。
- ③ 課外活動の活性化と生徒会活動の充実を図るとともに、地域貢献活動への参加を促す。
- ④ 教育相談や個人面談において、生徒の心の悩みや問題行動等の早期発見に努めるとともに、適切な指導・助言を行う。
- ⑤ 特別に支援を要する生徒にとって、学校が居心地の良い場所となるよう通級制度を活用するなど特別支援教育の充実を図る。
- ⑥ スマートフォン社会における望ましい人間関係を築く力を育む実践・研究を行う。

(3) 進路指導の重点

生徒が社会の一員としての役割を果たすとともに、一人ひとりの個性や持ち味を最大限発揮しながら自立して生きていくために必要な能力や態度を育む。また体験研究活動やボランティア活動など社会とのかかわりの中で、生徒が自らの在り方生き方を考え、「自分らしい生き方」を見いだしていけるようキャリア教育を推進する。さらに生徒一人ひとりが将来に向けて夢を持ち、夢の実現を可能にする学力の養成に努める。

- ① 様々な体験研究活動やボランティア活動を通して、将来社会的自立に必要なとされるコミュニケーション能力をはじめとする社会人基礎力を養成する。
- ② 計画的な進路ホームルームやガイダンス、個人指導を通して、生徒自身の自己理解を深めるとともに、個に応じた進路相談を実施する。
- ③ 「キャリアノート」を活用し、適切な勤労観・職業観を身につけさせ、生徒のキャリアプランニング能力の向上を図る。
- ④ キャリア支援部が中心となり全教職員と保護者等が連携し、生徒一人ひとりに対して丁寧に個別ガイダンスを実施し、各人の目標達成に必要な能力の伸長を図る。
- ⑤ 新しい大学入試に対応した学習指導を行うとともに、体験研究活動やボランティア活動を通じて主体性・多様性・協働性を育成し、総合型選抜での合格を目指す。

(4) 人権教育の重点

「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができる人権感覚の涵養と「人権教育基本方針」に基づく人権に関する知的理解の深化に努める。またすべての人の自己実現と互いを認め合いながら共に生きる「共生社会」の実現に、主体的に取り組む実践力を育成する。

- ① 人権教育をホームルームの年間計画の中に位置づけるとともに、教科や学校行事等の様々な分野において、生徒の確かな人権感覚を育て、人権課題に取り組む意欲、態度を育成する。
- ② いじめや SNS などによる誹謗中傷は人権侵害であり、全教職員が「人権を侵害する行為は、決して許さない」という態度で生徒に適切に指導助言する。
- ③ 全教職員が日々人権についての研修を積み重ね、地域の研修会にも参加し、地域の実態などを把握した上で、生徒に人間としての在り方生き方を考えさせ、様々な場面や状況において、具体的な態度や行動ができるように育成する。

(5) 国際理解教育の重点

国際化の進展を踏まえ、地球的視野に立って、主体的に行動するために必要と考えられる「異文化を受容し、つながることのできる力」「自ら発信し行動することのできる力」などの態度や能力を育成する。

- ① 各教科及び総合的な探究の時間等において、異文化理解を深めるとともに我が国の文化や伝統を尊重する態度を養う。
- ② 英語科の授業において ALT とともに「英会話」に取り組み、その成果を地域の異文化圏の人々との交流活動で発揮するなど生きた語学力を身につける。
- ③ 姉妹校（オーストラリア Keysborough Secondary College）との交流を深め、体験を通して異文化理解を図る。

(6) 防災教育の推進

命の尊さや助け合いの大切さ、ボランティア活動の重要性等、震災から得た教訓を語り継ぎ、生命に対する畏敬の念や助け合い、共生の心を育み、生徒に人間としての在り方生き方を考えさせる「兵庫の防災教育」に取り組む。また、地域の特性に起因する様々な自然災害に備え、対応できる力を育む。

- ① 近隣地域住民や隣接する小中学校とともに防災（避難）訓練を実施し、災害について科学的な理解を深め、災害発生時に適切に対応できる実践的態度や能力を育成する。
- ② 震災の教訓をふまえ、命の大切さを実感させる教育に取り組み、生徒のボランティア活動を積極的に推進し、共生の心を育む。
- ③ 播磨町の避難所指定を受け、関係諸機関と連携して地域の防災拠点としての役割を果たす。

3 健康管理に関する指導の重点

健康の意義を理解し、生涯にわたって健康的な生活をおくる自己管理能力の育成を図る。

(1) 健康相談の充実

生徒の心身の状態をよく観察し、学校と家庭、関係機関との連携に努める。

(2) 保健委員会の活性化

生徒保健委員会、学校保健委員会の活動を強化し、自他の生命尊重の精神を養う。

(3) 本年度の目標

- ① 心身の健康教育を充実し、健康の保持・増進を図る習慣を身につけさせる。
- ② 教育相談を充実させ、生徒の心身の問題に寄り添い支援する。
- ③ 様々な事象を通して、自他の命の大切さや生き方を考えさせる。
- ④ 薬物乱用等身近なところに潜む危険に対する理解を深めさせ、指導を充実する。
- ⑤ 特別に支援を要する生徒に寄り添い支援する。

4 研究テーマ

- (1) 高等学校における「通級」指導のあり方研究
- (2) 特色類型「地域デザイン類型」に関する研究
- (3) 構築したコンソーシアムを活用した体験研究活動やボランティア活動に学校全体で組織的に取り組み、小論文や面接の力を育成する研究
- (4) 総合的な探究の時間のあり方に関する研究
- (5) スマートフォン社会における望ましい人間関係を築く力を育む実践・研究
- (6) 新学習指導要領を踏まえながら、生徒が将来に対して夢を持ち、夢の実現を可能にする学力を身につけることができる開かれた教育課程編成に関する研究

5 高校生ふるさと貢献・活性化事業で実施する内容

(1) 地域で学び、地域に学び、地域で輝く人の育成

はりま春風フェス・国際交流 IN HARIMA・としょかんまつり・大中遺跡など地域のボランティア活動に積極的に参加する。

(2) 播磨町活性化プロジェクト

播磨町の未来を語ろう会に参加する。保護者、地域住民、東はりま特別支援学校も参加するクリーンキャンペーンによる街角清掃に参加する。

(3) 東はりま特別支援学校との交流

生徒会同士との交流、部活動の交流を主軸として学校間交流を推進する。

(4) 地域芸術交流

播磨町連合音楽会・まちかどコンサート等に参加する。

(5) 播磨南小中学校との交流

さまざまな教科・科目において播磨南小中学校と連携し、互いの深い学びにつなげる活動を実施する。

6 高校生就業体験事業～インターンシップ推進事業～で実施する内容

(1) 第3学年授業選択者による高校生ふれあい育児体験

(2) 第2学年での大学・企業見学

(3) 第2・3学年でのふれあい看護体験・県庁インターンシップ参加

(4) 第2学年での就職希望者による企業インターンシップ実施

(5) 第1学年でのHRの時間を利用したキャリア学習

(6) 全学年において大学・専門学校授業体験及びキャリアガイダンス

7 高校生キャリアノート及びキャリアパスポートの活用に関する内容

(1) 働くことの意義を理解し、自らの将来に夢を持ち、夢の実現に向けて様々な情報を捨選択・活用しながら、自己の生き方をデザインするキャリアプランニング能力を育成する。

(2) 自らの適性を見極めて自己理解を深めるとともに、主体的積極的に大学見学・企業見学を行うことで自己理解・自己管理能力を養う。

(3) 体験研究活動やボランティア活動を通して、自ら課題を発見し、協働して課題を解決する課題対応能力を養う。

(4) 日々の教育活動を通して、社会人としてのマナー等社会人基礎力を養い、学校生活の中で適切な意思表示方法を身につけ、より良い人間関係を築かせるために活用することで、人間関係形成能力、社会形成能力を育成する。

8 県立高校魅力アップ推進事業で実施する内容

(1) 地域の幼児や児童、高齢者などの異年齢層との交流を積極的に行い、コミュニケーション能力の向上を図る。

(2) 播磨町役場・播磨町議会から講師を招き、播磨町活性化案を協働して作成する。

(3) 播磨町役場や地域自治会、播磨南小中学校と連携した防災訓練を開催する。

(4) 地域デザイン類型の1年間の学習の成果として行う「地域デザイン類型発表会」を開催する。